

島の暮らしと地域活動 —私の石島に対する思いやり—

胸上漁協婦人部

部員 中野 文子

1. 地域の概要

玉野市胸上港より6 kmの沖にある石島は、面積817(822) km²で、香川県直島町井島と地続きの県境をもつ島である。

県境には、八十八ヶ所のお大師様があり、また、弥生式古墳も多数ある歴史のある島である。主として漁業(冬は海苔の養殖)を主産業としており、世帯数は38戸、人口は134人である。島は無医地区で、交通としては、毎朝、一往復する郵便船と火曜・金曜日の朝一往復の渡船に頼っている。(図1)

また、通学船としては、昭和32年頃、漁船を改造した「石島丸」がその始まりで、現在はスクールボートが1日3往復して、胸上港まで約15分で子供たちを送迎している。

石島港は、石島北岸中央にあって、江戸中期開港以来の生粋の漁港として今も活躍を続けている。

2. 漁業の概要

島の漁業者は30世帯で、40名が胸上漁協の正組合員、6名が准組合員となっている。また、漁業種類は、底引き網、建網、刺網、流し網、たこつばなわ漁があり、冬場になると18世帯がのり養殖に変わる。(写真1)

3. 活動グループの組織と運営

私たちの胸上婦人部は、昭和48年4月に結成され、現在58名の部員で構成されており、その内、石島在住の部員が28名いる。部員は、50代、60代が多く、高齢化が進んでいるが、比較的若い石島では母の代からバトンタッチしてだんだんと30歳代も参加するようになってきている。(写真2)

活動の中心は、ゲタの一夜干しなどの加工品作りと、その加工品を販売するとともに、婦人部からの情報発信の場となる各種イベントへの参加である。(写真3)

特に5月の末に行われる玉野市の「港フェスティバル」「下水道フェア」等ではタコの天ぷらやゲタの唐揚げの実演販売を行い、威勢のいい声とともに、消費者との交流も図っている。消費者の方々に、「おいしいから毎年買いに来る。」といわれると、とてもうれしくなる。(写真4)

また、胸上地区はノリ養殖が盛んであることから、のり消費拡大の活動として、他の婦人団体を対象とした「花ずし講習会」を平成8年からはじめ、年間5~6回開催し、参加して頂いた方が又、他の人に教えていくといった具合に、次々とその輪が広がっている。

それから、玉野市の、年1回開催される「玉野女性フェア」に参加して、女性の地位向上と男女共同参画社会を目指した活動にも取り組んでいる。(写真5)

もう一つの活動は、漁村の良さを見直し、「漁村の中での助け合い、励ましあい」をテーマとしている『ふれあい福祉活動』である。(写真6)

胸上・石島地区内75才以上の人125人に毎年、7月、手作りのお弁当と魚の加工品を届けており、これから我々も高齢化していく中で、地域内での心の交流を大切にしていきたいと考えている。(写真7)

4. 課題選定の動機

私の家は、夫と私の2人でたこつばなわ漁を中心におこなっている。夫婦2人きりで作業を行うので、なかなか作業が思うようにはかどらない事も多くある。収入は、その年によって差はあるが、ほぼ安定している。

地物のタコの人気は高く、発砲スチロールの箱に入れ、生かしたまま遠くは名古屋の方面まで出荷されている。島内には、たこつばなわ漁をしている家は、わが家の他に2軒あるが、会えばお互いに情報交換をしている。

私は、昭和42年、縁あって、香川県詫間のサラリーマンの家から石島に嫁いだ。身体があまり丈夫でなかったこともあり、空気や自然のきれいな島に惹かれたことが決めてになった。(写真8)

5. 活動の状況

私は、漁業を始めて、今年で27年になろうとしている。島に来た当時は、言葉の発音が違い、言っていることがわからなかったり、叱られていると勘違いしたりで、とまどいが度々あった。また、それまで船に乗ったことがなかった私は、15分ほどで行ける宇野までの間にも船酔いをしてしまい、「もう船に乗るのはイヤだ」と何度も思った。サラリーマンから漁家へ、何にもなく静かすぎる島の生活への180度の生活環境の変化に、なかなか慣れることができず、辛くて、夜、布団の中で泣いたことが何度もあった。子供を背負い、ミルクやポット、おむつ等荷物を船に乗せ、沖に出たこともあった。そんな時、婦人部の仲間と話をする、「辛いのは私だけではない、皆そんな思いを乗り越えてきた、私も頑張らなくては」と、勇気がわき、必死で頑張ることができた。何もわからない私の支えとなってくれたのは、婦人部の仲間や島の人々のおかげである。兄弟のようにあたたかい目で見守ってくれ、また困った時は色んな事を教えてくれて、自分の事のようによくして頂いた。今は島全体が1つの家族のようにも思っている。

島には病院や店もなく、定期便もないため、島の生活を捨て、離島する人も年々増加していたが、昭和60年以降、島の漁業後継者10人が次々に結婚したため、現在、島には小学生から高校生までも20人おり、元気のいい声があちこちで聞かれ、島も活気を取り戻した。この子供達には、島のよさを存分に味わってもらい、いつまでも島を忘れず、またいつでも戻ってこれるような島でありたいと思っている。(写真9)

現在、島の大きな行事として、4月におこなう石島分校での運動会があるが、この運動会は、地域の活性化を目指して実施され、島民全員と島外へ出ている人も帰ってきて参加するほどの盛大な行事となっている。(写真10)

また、6月の「ふれあいの会」では、小学生とおじいちゃん、おばあちゃんが揃って参加して、毎年、いなりずし作り、けん玉、お手玉、竹馬作りなどの昔遊びをして楽しんで

いる。高齢者を大切に作る気持ちを育て、島の暮らしの良さを伝えていきたいと学校とPTAが連携して実施している。(写真11)

8月の「親子学習」では、子供たちが竹いかだを組み、井島側の無人島まで漕いで行き、親と合流してカレーを作ったり、バーベキューをして1日を過ごしたりしており、島民全体が10戸の若い漁業後継者世帯に熱い期待を寄せている。(写真12)

6. 波及効果

島に来て初めて知った漁業の辛さ、厳しさ、不便さのある暮らしをなごまし、漁業への意欲をもたらしてくれたのも、また辛さや悩みを共有してくれたのも島の仲間がいたからこそである。

そして、前に述べたように運動会やふれあいの会が開催され、みんなが参加するようになり、島が次第に元気づいてきた。

不便さはあるけれど、楽しさもあり、生き生きとした生活をしている。

7. 今後の課題

現在、子供2人も独立し、私も、50才代後半にさしかかっている。今まで島の仲間がいたからこそ、漁業をやってこれたとあらためて思っている。

長年の漁で、足腰が痛くて、思うように動けなくなったが、これからは、石島のために少しでも役に立てればと思っている。先に述べたように、若い世代の後継者夫婦がたくさんいるので、その人たちを核として、我々島民全体で支援をしながら、石島にしかない事ができたら、また島の外の人に石島の良さを知ってもらいたいと、最近思うようになった。空気がおいしく、魚は新鮮、人はみんな優しく親切、こんなところが今時、他にあるだろうか。

島の子供達も成長して進学に、就職にと、この島を出ていくかもしれない。そうになると住民の数も減ってくるだろう。そこで、今、将来に備えた活動として次のことをしたいと夢を描いている。

まず1つは、島外から石島へ人を呼び込み、いつまでも元気な島でありたいということである。島外の人にたくさん来てもらうには、船便を確保しなければならない。上水道は平成8年に整備されたものの、下水道の整備は遅れている。また、宿泊場所もないので、これらも考えていかなければならない。婦人部が中心となり、下水道の整備や定期便の設置など要望を上げたり、宿泊場所についても、小学校の校庭をキャンプ場に開放するとか、島内の個人の空き家等が利用できないか、検討していきたいと思っている。そして多くの島内外の親子連れに訪れてもらい、漁業体験及び、婦人部員でおいしい魚のさばき方を教えてあげたり、食べてもらったりして、石島の魅力を知ってもらいたいと思う。「夏になったら、石島に魚を食べに行こうよ」と言われるようになったらどんなに楽しいだろうと思う。

もう1つは、婦人部活動と併せての地域活動として、相互扶助等、福祉活動に取り組んでいきたいと思う。例えば、病院に行く時、交代で船を出したり、代わりに買い物を請け負ったり、一人暮らしの人へのお弁当づくり等である。お弁当づくりは、胸上地区と合同で、今年から始めたが、大変お年寄りに喜ばれ、もっと回数を増やしていければと思う。

いる。

これらの夢は、私1人の力だけでは実現することはできない。婦人部員が呼びかけ、島のおじいちゃん、おばあちゃん、子供達、若い人達のパワーをもらって、島全体の地域活動として取り組んでいけば最高である。のびのびとした島の暮らしを伝える行事や魚食普及を通して、また仲間で協力し、励ましあって、島や漁業のよさを伝えていきたいと思っている。

最後に、私たち石島の婦人部員は、今後も島の活性化の原動力となって頑張っていこうと思っている。

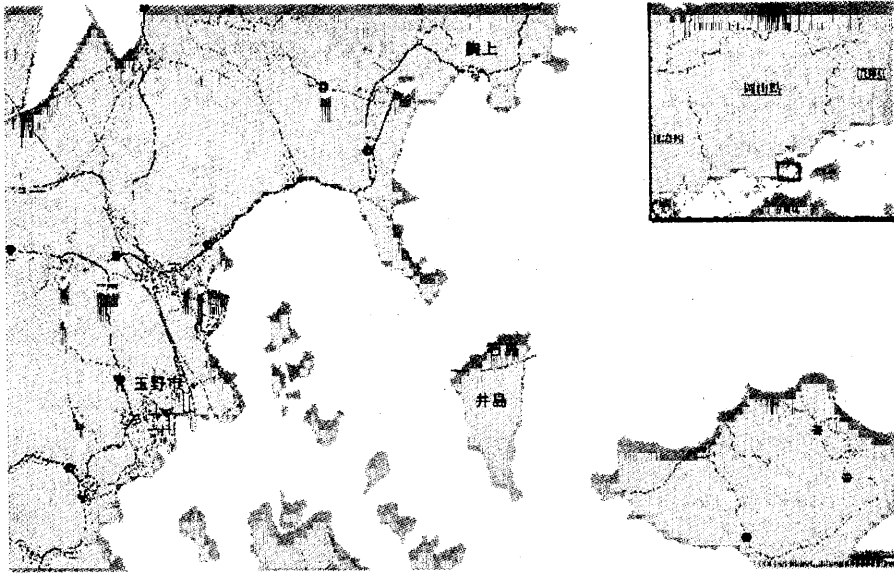


図1 石島の位置図



写真1 スクールボート



写真2 石島婦人部員

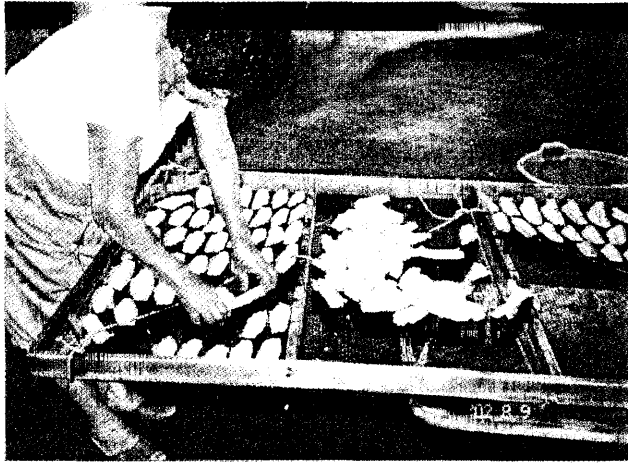


写真3 加工品作り
(ゲタの一夜干し)



写真4 港フェスティバル



写真5 花寿司講習会



写真6 ふれあい福祉活動



写真7 ふれあい福祉活動

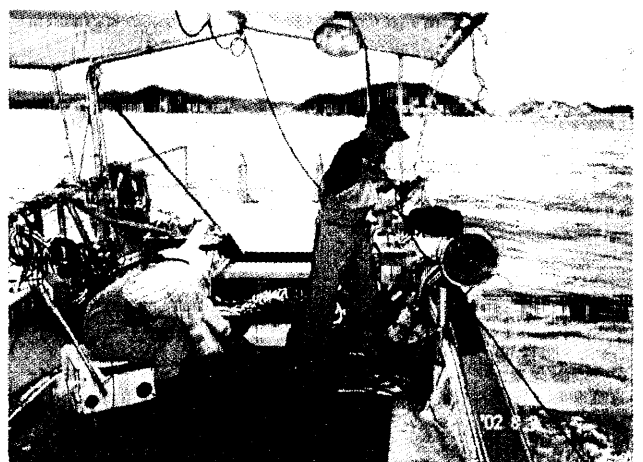


写真8 漁業風景

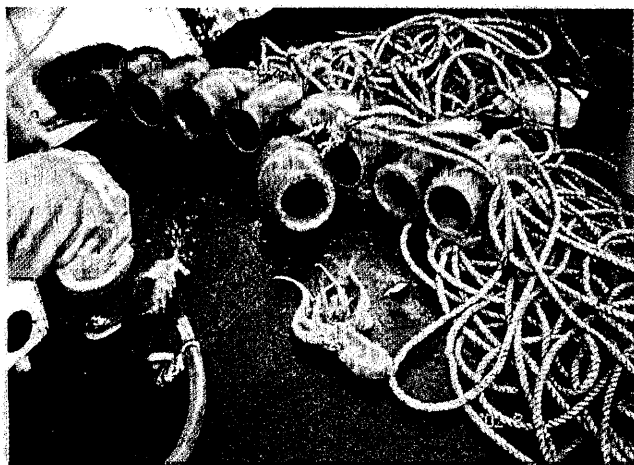


写真9 漁業風景



写真10 運動会

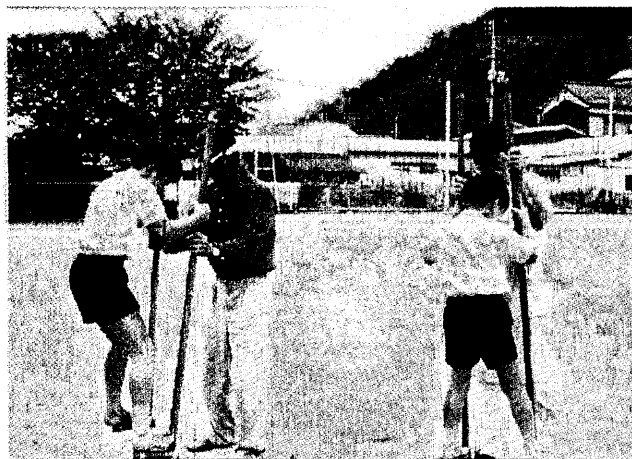


写真11 ふれあいの会

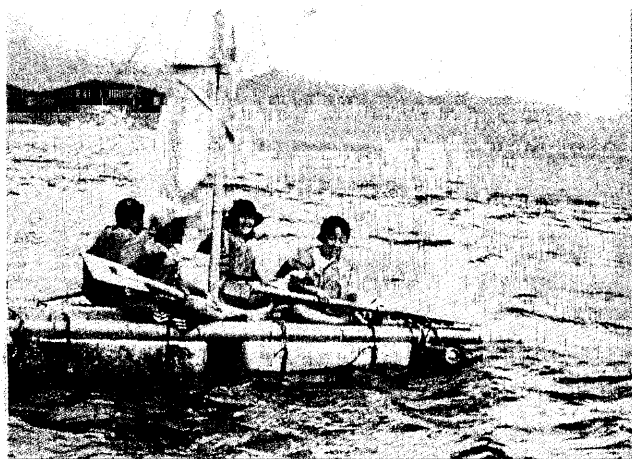


写真12 親子学習
(筏漕ぎ)